

2025 年 10 月 20 日

報道関係各位

「有楽町アートアーバニズム」実行委員会
(委員長 NPO 法人 大丸有エリアマネジメント協会
一般社団法人 大手町丸の内有楽町地区まちづくり協議会
三菱地所株式会社)

有楽町アートアーバニズム新拠点 「YAU CENTER ぜにがめ」が 2025 年 10 月 31 日に開設

創造的なまちづくりのエンジンとなることを目指し
都市空間にひらくアーティストたちの実験と実践の場へ

「有楽町アートアーバニズム」実行委員会(*1) が主催する「有楽町アートアーバニズム | YAU (ヤウ)」(以下、YAU) (一部プログラムは東京都生活文化局と共催) は、2022 年の立ち上げ以降、日本有数のビジネス街である大手町・丸の内・有楽町エリア (以下、大丸有エリア) を創造のコアとして、アーティストの創作と街の活動を水平に結ぶプラットフォームを形成してきました。

この度、新たな都市の活動拠点として「YAU CENTER ぜにがめ」を 2025 年 10 月 31 日に開設します。新たな発信拠点「YAU CENTER ぜにがめ」では、これまでの活動で育んだ実践の土台から、都市の日常に寄り添い、創造的なまちづくりのエンジンとなることを目指して、アーティストたちの創作のプロセスそのものを都市にひらきながら、段階的に展開していく予定です。



第 4 期の始動を機にまちなかや新たな隣接エリアへと拡張するフェーズへと移行していくなかに生まれた、新たな拠点「YAU CENTER ぜにがめ」は、『銭瓶町ビルディング (千代田区大手町二丁目 6 番 3 号)』1 階のスペース「ぜにがめプレイス (*2)」に開設します。同時にオープンする、一般社団法人日本現代美術商協会 (CADAN) が一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパンの協力を受け運営するアート・ギャラリースペース「CADAN 大手町」と隣り合って、アートとまちとの新たな繋がりを生み出していきます。都市のインフラと生活動線がダイナミックに交差し、日本で最も高いビルとなる超高層の Torch Tower

の竣工を 2028 年に控えるこのエリアから、YAU は社会を映し出す鏡でもあるアーティストたちとともに、都市の発展にも同期するかのよう、新しい価値の創出を目指します。

同スペースでは、2 つのアーティスト活動支援プログラム「Y-base」「Y-LAB」を始動します。パフォーミングアーツのための稽古場を軸とした Y-base と、多様なジャンルのアーティストのためのプリントセンターである Y-LAB の活動は、新たな実験と実践の場となります。（詳細後日アナウンス予定）オープンに合わせてスタートする連続企画「pump」では、各回一夜限りの、多彩なアーティストたちの協演が湧き起こります。まちと接続する都市空間に起こる、新たな表現にご期待ください。

（*1）「有楽町アートアーバニズム」実行委員会は、大丸有地区のまちづくりを行っている、NPO 法人 大丸有エリアマネジメント協会（リガーレ）を委員長として、一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会（大丸有協議会）、三菱地所株式会社より組成されています。

（*2）東京都下水道局が銭瓶町ビルディング 1 階に整備した情報発信拠点（2022 年 8 月 2 日開設）。東京都下水道局が所有し、大手町、丸の内などの汚水を水再生センターに送水する重要なインフラである銭瓶町ポンプ所が設置されており、大丸有エリアマネジメント協会と連携して下水道の広報やエリア活性化を推進する取り組みを実施しています。

「YAU CENTER ぜにがめ」OPEN 記念！ 特別イベントやそれに続くプログラムを実施

《オープニングイベント》

YAU CENTER ぜにがめの開所を記念した特別イベントやプログラムの実施を予定しております。

■ 連続企画「pump vol.001」

アーティスト・斉藤裕太による自作のプリンター作品のインスタレーションをベースに、「音を聴くこと」を起点とした独自の音空間を構築する荒木優光のパフォーマンスを行います。東京都荒川区のギャラリー兼食堂「LAVENDER OPENER CHAIR・灯明」の代表であり、シェフ／現代美術家の富樫達彦によるお料理と共に楽しみいただけます。

・開催概要

日時：10 月 31 日（金）18 時～20 時（予定） ※料理の数には限りがあります

会場：YAU CENTER ぜにがめ（千代田区大手町 2-6-3）

参加作家：富樫達彦（「Lavender Opener Chair / 灯明」オーナーシェフ・アーティスト）、斉藤裕太（アーティスト）、荒木優光（アーティスト／音楽家／サウンドデザイナー）

企画：YAU

■ 「PRINT HOUSE by TPR」

YAU CENTER ぜにがめでは、多様なジャンルのアーティストたちのプリントを介した制作に応えるため、施設内の一角にインクジェットプリンターやコピー機、スキャナーなどを設置した「Y-LAB」を設けます。この実験的な取り組みに向けて、同施設のオープニング企画として現代写真のアーティストコレクティブ・TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH による「PRINT HOUSE」を開催します。期間中さまざまなアーティストが Y-LAB の機材を使用してジンを作成し、会期最終日に向けて発表していく予定です。

・開催概要

会期：10 月 31 日（金）～11 月 21 日（金）のうち、水・金・土の 12:00-19:00

会場：YAU CENTER ぜにがめ（千代田区大手町 2-6-3）

参加作家：小川美陽、河原孝典、児嶋啓多、小林健太、小林菜奈子、小山泰介、斉藤裕太、志賀耕太、島内秀幸、築山礁太、富安隼久、細倉真弓、前田梨那、松井裕生、松原茉莉、村田啓、八木幣二郎ほか
企画：TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH（TPR）

■ YAU CENTER ぜにがめ「Y-base」

YAU では一般社団法人ベンチと協働し、大手町・丸の内・有楽町エリアのオフィスビルの一角を舞台芸術（演劇・ダンス等）の稽古場に転用するプロジェクトを2022年2月より実施してきました。YAU CENTER ぜにがめのオープンに際し、Y-base を再始動、拡張し、本スペースにて制作や企画等を行う舞台芸術分野に関するレジデント・メンバーを募集します。応募要項は[こちら](#)からご確認ください。

・開催概要

利用対象期間：2025年11月24日(月・祝)～2026年2月22日(日)

採択件数（予定）：3～5件程度

応募締切：2025年11月3日（月・祝）23:59

企画・制作：一般社団法人ベンチ

■ YAU CENTER ぜにがめへのご来場について

※営業日・営業時間はプログラムにより異なります。

※今後の活動や参加方法等の詳細は、[公式サイト](#)および [SNS](#) を通して順次発信を予定しております。

※CADAN 大手町の詳細は[こちら](#)からご確認ください。

大丸有エリアを舞台にアートを展開中！ アートと都市をつなぐ実験的プロジェクトが続々とスタート



左：YAU WALL ジャン＝ヴァンサン・シモネによる《Deep peeling》 撮影：小山泰介
右：YAU KIOSK 撮影：森本絢



有楽町アートアーバニズム（YAU）は、大丸有エリアを舞台に、アートを通じてまちに新しい風景を生み出すプロジェクトを次々と展開しています。

・街に現れる小さな表現の拠点「YAU KIOSK」

YAU KIOSK は展示、ワークショップ、パフォーマンスなど、アートが街に出ていく移動型プログラムです。アーティストコレクティブ「GC magazine」による写真表現の実験や、ダンサー・涌田悠による“からだと短歌”の街歩きツアーなど、日常と創造が交わる瞬間をつくり出しています。



体験型街歩き『からだ」と短歌で巡る！有楽町ミニツアー』

11月9日(日) 14:00 11月10日(月) 12:00/14:30 @有楽町駅東口広場

▼詳細・ご参加のお申し込みはこちら

<https://kiosk2.peatix.com>

■涌田 悠（わくた はるか）

短歌を詠むダンサー / 振付家。1990年生まれ、東京都出身。3歳よりモダンダンスを始め、柿沢ミヨ・関原亜子に師事。振付家として、“からだ」と世界が触れ合うところに生まれる言葉と踊りの関係性”に興味を持ち、2014年より自作短歌と共に踊る作品〈短歌 de ダンスシリーズ〉を展開。

・都市空間を展示壁に変える「YAU WALL」

街なかの壁を作品発表の場に。第一弾では、フランス人アーティスト ジャン＝ヴァンサン・シモネによる《Deep peeling》を公開。アーティストの視点で描き出された有楽町の姿が、日常に新たなまなざしをもたらします。

会場：丸の内オアゾ 1F ○○広場（スターバックス コーヒー前）

会期：2025年10月10日（金）～2026年1月初旬予定

時間：施設営業時間による

■ジャン＝ヴァンサン・シモネ

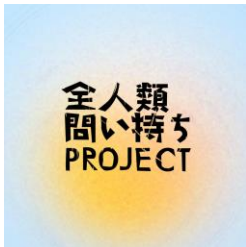
2014年にローザンヌ州立美術学校（ECAL）を卒業し、現在はパリとチューリッヒを拠点に活動。伝統的な写真技法と実験的な印刷プロセスを融合させた独自の表現手法を発展させてきた。産業用印刷業を営む家庭で育った背景から、デジタルの精密さと手作業による物理的介入とを組み合わせるアプローチを確立する。21世紀の、イメージが氾濫し、豊かでありながら非物質化される現状に対し、イメージに「アウラ」と「物質性」を取り戻すことを志向している。

・まちなか公募で新しい都市の使い方を提案

まちなかで偶発的な出会いや思考を促すプロジェクトを広く募集し、「全人類問い持ちプロジェクト」と「TALK NONSENSE」の2件が採択されました。2025年12月と2026年3月に作品を展開予定。

企画名：違和感預かり所

日常に生じる微細な違和感を預かり、他者との往復を通じて「問い」を立ち上げる実験的インスタレーション。街角に設置したボックスを通じて、違和感を預けたり、それに対する誰かの応答を受け取ったりすることで循環が生み出す。そしてその循環は、共感ではなく「わからなさ」を入口に対話を誘発し、多様な人々が問いを共有することで、都市を思考と対話の遊び場へと更新する。



■全人類問い持ちプロジェクト（岸ふみ、佐藤もと、岸涼香、遠藤梢子）

「問うことは、社会を変える前にまず自分の心を満たすものである」と再定義し、日常の些細な違和感から問いが立ち上がる感覚を楽しめる空間や仕掛けを日々制作する。

企画名：『都市を編み直す《WORKSHOP + COPYROOM》：Knits & Review A project by TALK NONSENSE』

歴史的な編み図を再解釈し、現代の視点で展開するリサーチプロジェクト。戦時下に市民がホームフロント（戦地の兵士や負傷者への慰問）として編んでいたニットパターンを収集・翻案し、東京の公共空間に《コピー室》を設け自由に印刷可能とするとともに、レクチャー型ワークショップを実施。編み物を通じて公共空間における交流の可能性を探る。



■TALK NONSENSE（小梶真吾、沖裕希）

衣服を《作ること》《着ること》がもつ社会的側面を探究する。分野横断的なプロジェクトを展開し、この1年はリサーチに基づく製品開発やワークショップを実施し、その結果を社会にひらいている。

www.talknonsense.xyz

YAU LEARNING 参加申し込み受付中 - 都市で学ぶ実践的アートプログラムの紹介



2025 年度「展覧会設計演習」授業風景 撮影：中川陽介

これまで YAU では、アーティストやクリエイターと協働した都市部における創造的プログラムのほかに、さまざまな学びの場を設けてきました。東京都および東京藝術大学との三者連携によって 2023 年より開講している『[有楽町藝大キャンパス](#)』では、さまざまな背景をもつ受講生が年代を越えてアートを学んでいます。11 月より開講する後期授業では、「クリエイティヴ・アーカイヴ研究会 ーポスト・サーチとは？ー」が 10 月 31 日（金）まで、受講生を募集しています。舞台芸術分野では、アーティストやマネージャーとの対話と作品創作を通して、マネジメントの第一歩を知る『[ファーストライン](#)』、都市体験のデザインスタジオ「for Cities」主導のもと、ユニークなテーマで都市を考察、リサーチを行い、街に介入する『[URBANIST CAMP TOKYO](#)』など、アートの活動領域を押し広げた多様なプログラムを、大丸有エリアを中心に創出しています。

こうした YAU が関わる学びのプログラムを「YAU LEARNING」と総称し、今後も都市部におけるさまざまな関心領域を横断させ、ビジネスワーカーや来街者、また学生も学ぶことができる機会を探索していきます。

・吉本英樹×YAU LEARNING【申し込み・締切まもなく】

吉本英樹×YAU LEARNING

<領域開拓デザイン演習>

ー 多領域との交差から生まれる、次の創造。

YAU による学びの場「YAU LEARNING」が、東京大学先端科学技術研究センターより吉本英樹氏を迎えて新たに開講する<領域開拓デザイン演習>。

吉本氏は、これまで航空宇宙工学を背景に、イギリスのロイヤル・カレッジ・オブ・アート(RCA)でデザインを学び、エンジニアリングとデザインの融合に取り組んできました。この<領域開拓デザイン演習>は、吉

本氏先導のもと、各分野のフロンランナーとして活躍するゲストの思考に触れ、交流し、私たちの思考を多方向にひらくプログラムです。

各講義のテーマは「宇宙」「工芸」「デザイン」と、スケール感も日常やビジネスとの距離感も、それぞれ異なる特徴をもつものです。しかし、その裏側にある思考や実践は、既成の枠組みを越えた考えと価値観に溢れ、そこに触れることで私たちの日常生活に身近な思考として巡ってくることでしょう。本演習はゆるやかにコースをふたつ（Aコース：講義＋吉本氏との研究会つき／Bコース：講義のみ受講）に分け、また交流会を設けて、受講メンバー同士の新たな気づきと繋がりも促します。

講師：吉本英樹（東京大学先端科学技術研究センター特任准教授）

デザイナー、クリエイティブディレクター。

東京大学先端科学技術研究センター特任准教授。

2010年東京大学大学院航空宇宙工学専攻修士課程、2016年英国 Royal College of Art デザイン工学専攻博士課程を修了。2015年ロンドンにて Tangent を設立。2020年東京大学・先端科学技術研究センターにて先端アートデザイン分野を共同設立し、ロンドンと東京を拠点にさらに活動の幅を広げる。

▼詳細・ご参加のお申し込みはこちら

<https://arturbanism.jp/project/frontier-design-2025/>

申し込み締切

・Aコース 10月24日（金）23:59まで

・Bコース 11月13日（木）23:59まで

※先着順となりますので、締切日前に募集を終了することがあります。

本講座についての問い合わせ：arturbanism.learn2024@gmail.com （有楽町アートアーバニズム YAU）

「FUTURE VISION SUMMIT 2025」開催

「FUTURE VISION SUMMIT 2025」実行委員会
（構成団体：NPO 法人 大丸有エリアマネジメント協会（リガーレ）、Forbes JAPAN、「有楽町アートアーバニズム（YAU）」実行委員会、一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会）は、2025年12月9日（火）、10日（水）に「FUTURE VISION SUMMIT 2025」を開催します。今年度は東京藝術大学が共催に入った上での開催となります。

YAU は本サミットの構成団体として、引き続きアートと社会の越境的な対話を促し、その場から生まれる未来に向けた具体的なプロジェクト創出を担い、活動の展開を加速させてまいります。



■ FUTURE VISION SUMMIT 2025 開催概要

【会 期】2025年12月9日（火）・10日（水）

【会 場】丸ビル7階丸ビルホール・丸ビル8階コンファレンススクエア、三菱ビル1階サクセス

【主 催】「FUTURE VISION SUMMIT 2025」実行委員会（構成団体：NPO 法人 大丸有エリアマネジメント協会（リガーレ）、Forbes JAPAN、「有楽町アートアーバニズム（YAU）」実行委員会、一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会）

【特別協力】三菱地所株式会社

【協力】東京藝術大学 芸術未来研究場

ご参加のお申し込み、また詳細は、公式サイト（11 月中旬頃公開予定）・[Peatix 特設ページ](#)よりご確認ください。

有楽町アートアーバニズム（YAU）概要

【名称】有楽町アートアーバニズム YAU

【開催期間】2025 年 4 月～

【開催場所】YAU STUDIO（東京高速道路 北有楽ビル 1 階 16 号室）

【主催】「有楽町アートアーバニズム」実行委員会

（NPO 法人大丸有エリアマネジメント協会、一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、三菱地所株式会社）

【共催】東京都（一部プログラムを実行委員会との共同事業として実施）

【企画】YAU プロジェクトチーム

深井厚志、森純平、小山泰介、武田知也、藤井さゆり、東海林慎太郎、金森千紘、小森あや、
山本さくら、村松里実、佐藤瞳、築山礁太、武田花、栗田結夏、黒須莉菜

合同会社 TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH、一般社団法人ベンチ、株式会社フロントヤード

【助成】国土交通省

【公式サイト】<https://arturbanism.jp> ☆YAU のウェブサイトがリニューアルオープンしました。

※YAU STUDIO は、通常は一般公開していないプライベートスペースですが、[お問い合わせフォーム](#)からスタジオビジットを受け付けております。また、YAU SALON や展示等イベント時に一般来場を受け付けて、活動成果の公開と交流を行っています。

＜本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先＞

大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり PR 事務局 共同ピーアール(株)PR アカウント第 3 本部 5 局 2 部
担当：内山

TEL：070-4303-7327 FAX：03-6260-6653

E-mail：tokyo-omy-pr@kyodo-pr.co.jp